

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2024 年度に最も力を注いだのは、前年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果等の概要は、以下の通りである。</p> <p>(1) 高等教育での教育研究</p> <p>① 経済学部日本語部会の部会長職 10 年任期満了となったため、部会長業務の詳細をまとめた引継ぎ文書（全 9 頁）を作成し、新部会長への引継ぎを完了した。</p> <p>② 同部会のメンバーとして、以下 3 点の編集・作成作業に携わった。</p> <p>『「日本語リテラシーⅡ」指導要領 2024 年度版』（全 25 頁の作成を担当）</p> <p>『「日本語リテラシーⅠ」指導要領 2025 年度版』（1～62 頁の作成を担当）</p> <p>『「日本語リテラシーⅠ」教材集 2025 年度版』（1～12、38～68 頁の作成を担当）</p> <p>大学教務システムが Teams から WebClass へ移行されたことに伴い、『「日本語リテラシーⅡ」指導要領 2024 年度版』では、内容の一部を新システムの操作方法を盛り込んだものに刷新する作業にも追われた。</p> <p>③ 「日本語リテラシーⅡ」第 14 回～第 15 回用の輪読教材福澤諭吉『学問のすゝめ』の一部リニューアルを実施し、原典の十七編を教材用に編集する作業を行った。</p> <p>④ 過去に収集した論理的表現力に関する諸資料の整理・アーカイブ化を継続して、残り 8 年分を完了させた。</p> <p>⑤ 他大学からの日本語リテラシー科目への視察に対する応対に従事した。</p> <p>(2) 古代ギリシアにおける市民教育に関わる研究</p> <p>継続してきた弁論術教育に関する古典ギリシア語原典史料の調査研究において、古代ギリシア人が日常生活で使っていた、いわゆる金言・格言を対象として、蒐集する作業を進めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 教育社会学関連データの作成</p> <p>経済学科 5 群科目「社会学特講」において使用する大学進学率に関するデータを、Access を用いて UNESCO のデータベースから抽出した上で、その一部情報を Excel ファイルに出力し、学生が授業で活用しやすいように大幅に整理分類した。</p> <p>(2) ラテン語教科書の一部大幅改訂</p> <p>言語系科目「西洋古典語の世界」では独自に作成した教科書を使用してきたが、ラテン語教科書の一部、とりわけ動詞の単元に関する部分を大幅改訂した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>前年度と同一テーマが最重要課題となる。高等教育での教育研究では日本語リテラシー科目の強化充実に努めることになる。さらに、古代ギリシア研究の面でも弁論術教育に関わる史料のさらなる蒐集・整理作業を進めていきたい。</p>	